

石垣市観光危機管理計画(仮称)素案検討会 第2回 実施内容

1 検討内容

- (ア) 前回の各団体・業界、また自治体等の取組内容の紹介を踏まえ、今回はより具体的に進めるべく、観光危機管理マニュアル作成に向けた素材の洗い出しを行う。
- (イ) 実際のリスクシナリオに則り、ワーキング形式で各団体の業務フロー等を提示しあい、役割分担や課題の抽出、補完すべきポイントなどを整理し、マニュアルの骨子案を作成する。

2 ワーキング内容

(ア) 運営方法

- ① グループ毎に各委員の所属する業界が偏らないよう配慮し、グループを2組編成する。
- ② グループ毎に所定の模造紙を用意し、各テーマについてそれぞれ付箋に書き出し貼付、グループ毎に確認しあう。
- ③ 全てのテーマを終えたのち、事務局にて1つのシートにとりまとめ、委員全体と共有、マニュアル骨子案として整理する。
- ④ 次回はマニュアル骨子案を更に実践的に肉付けすべく、各団体の現場担当者に出席を依頼し、骨子案の内容に沿って、具体的な業務や相互の連携について意見交換を行う。

(イ) 想定するリスクシナリオ(地震・津波のケース)

- ① 震度6強の地震を観測、2分後に大津波警報が発令。市内でも避難指示が発表された。
- ② 修学旅行や家族旅行、マリンアクティビティや登山などのレジャー客、またインバウンドなどさまざまな観光客が滞在中。
- ③ 30分後、津波の第1波が発生、市街地の多くが浸水。津波の高さは3mを超え、古い建物が倒壊・流される。
- ④ 市役所では「危機管理本部」が立ち上がり、観光客の早期帰宅に向け、観光客の安否が把握されようとしている。
- ⑤ 早期帰宅を求める避難民が離島ターミナルと石垣空港に殺到している。

(ウ) 確認すべきテーマ

- ① 業務ごとのフローの洗い出し
- ② 優先される業務の選択とその順位付け
- ③ 想定されるリスクの大きさを予測する（複数のシナリオ）
- ④ 業務復旧への対策の抽出
- ⑤ 対策ごとの実務者とその役割を決める（連携先）

(エ) ワークショップメンバー編成

No	氏名	所属	分類	WS役割	テーブル
1	翁長 由佳	株式会社サンダーバード 代表取締役	学識 経験者	監修者	浮遊
2	親盛 一功	一般社団法人 石垣市観光交流協会 副会長	観光関連 団体	レンタカー 事業者	A
3	赤城 陽子	石垣島ビーチホテル サンシャイン 常務取締役 総支配人	観光関連 事業者	ホテル 事業者	B
4	久場島 清俊	東運輸株式会社 常務取締役	観光関連 事業者	バス 事業者	B
5	黒島 一博	八重山観光フェリー 株式会社 常務取締役	観光関連 事業者	船舶 事業者	A
6	平安名 浩文	有限会社安栄観光 常務取締役	観光関連 事業者	船舶 事業者	B
7	玉城 力	日本トランスオーシャン航空 株式会社 八重山支社長	観光関連 事業者	航空 事業者	A
8	宮脇 秀至	全日本空輸株式会社 石垣八重山支店長	観光関連 事業者	航空 事業者	B
9	西仲野 正巳	一般社団法人 石垣市観光交流協会 事務局長	観光関連 団体	観光協会	A
10	金城 徹	一般社団法人 八重山ビジターズビューロー 専務理事	観光関連 団体	観光協会	B
11	照屋 学	石垣島地方気象台 防災管理官	公共機関	気象	A
12	新城 寛樹	竹富町防災危機管理課 課長	公共機関	八重山 圏域	A
13	宇根 正人	石垣市消防本部警防課 課長	公共機関	消防	B
14	大瀨 武	石垣市総務部 防災危機管理課 課長	公共機関	自治体	浮遊
15	小切間 元樹	石垣市企画部 部長	公共機関	自治体	浮遊